

KIPOにおける AI特許検索システムの状況と計画

PIFC | 2024年10月

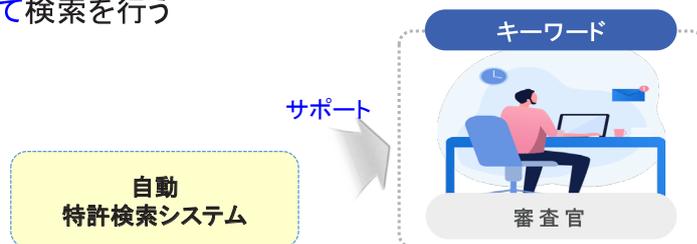


AI特許検索システムの状況

- KIPOでは現在約1000人の特許審査官が従事している
- 特許審査官をサポートするためにKIPOは特許検索システム「KOMPASS (KOrean Multifunctional Patent Search System)」を運営している
- 主要な機能は、もちろん、迅速かつ正確な先行技術調査である

AI特許検索システムの状況

- 通常、先行技術調査では、
審査官は発明の重要な要素を特定し、
キーワードを直接入力して検索を行う



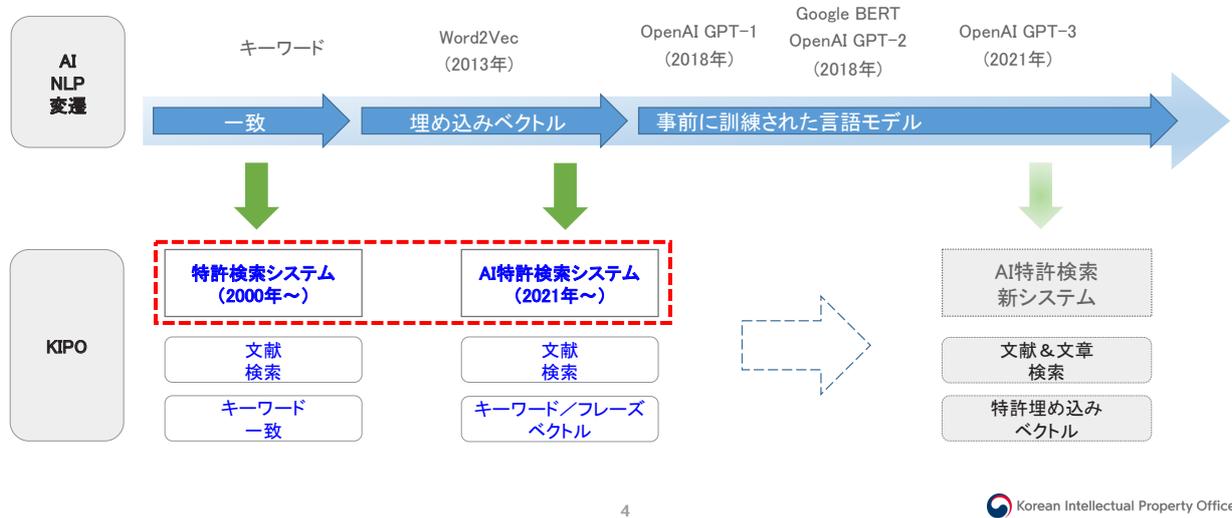
2

AI特許検索システムの状況

- 現在、KIPOでは2つの自動検索システムによって審査官をサポートしている
- 一つは「類似特許検索」、もう一つは「AI類似特許検索」である
- どちらもAIベースであり、出願番号を入力するだけで、類似の先行技術文献200件が自動的に検索される

3

AI特許検索システムの状況



4

AI特許検索システムの状況



- 特許検索システム(2000年~): キーワードによる検索

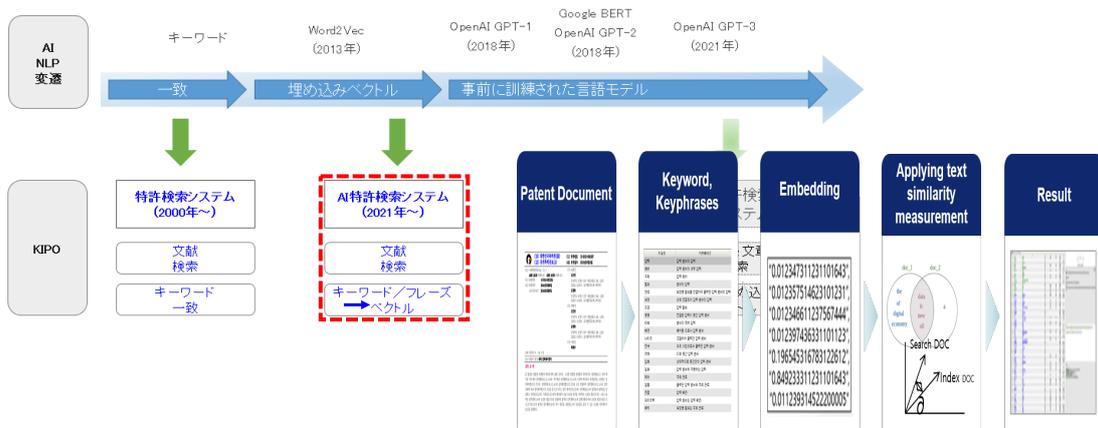
5

AI特許検索システムの状況

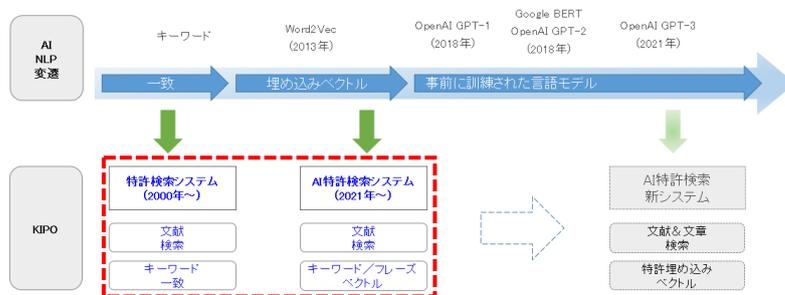


- AI特許検索システム(2021年~): キーワード/フレーズによる検索
- 埋め込みベクトル → 類似性測定

AI特許検索システムの状況



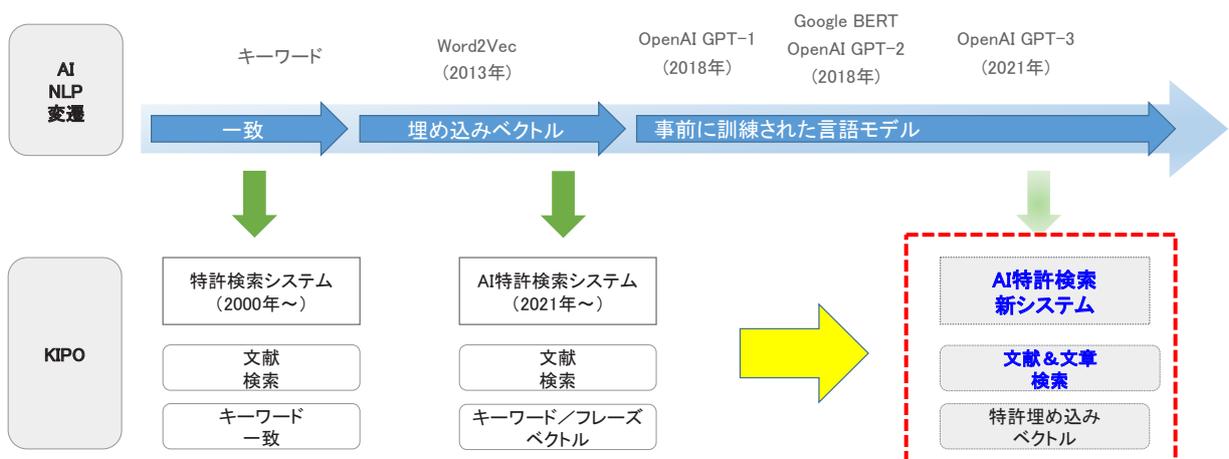
AI特許検索システムの状況



- 審査官は2つのシステムを広く利用しているが、満足度はそれほど高くない。
- その理由として、システムは類似文献を効率的に検索するものの、検索結果の件数(約200件)が非常に多いことが挙げられる。とりわけ通知書を作成する際、審査官は参考文献を各クレーム要素と比較する必要がある。

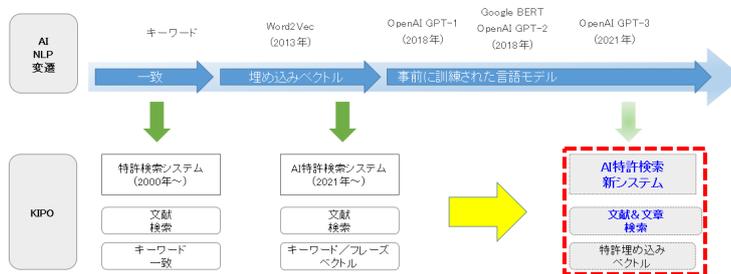
8

AI特許検索システムの計画



9

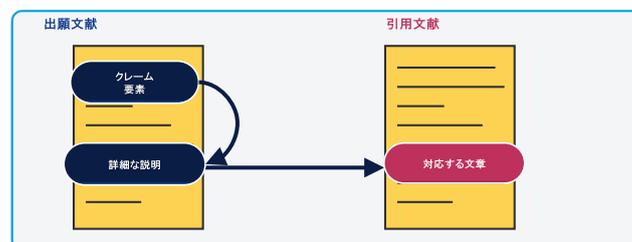
AI特許検索システムの計画



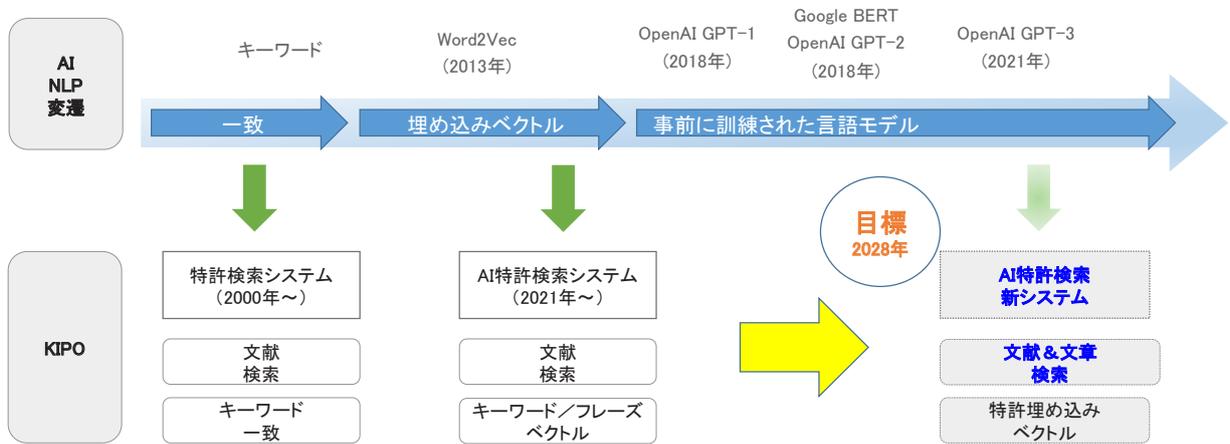
- 現在、R&Dは、単に類似**文献**を特定するだけでなく、**クレーム要素と一致率の高い文章**を先行技術から**見つける**ことに注力している。
- 言い換えれば、先行技術検索は**文献レベル**から**文章レベル**に展開されている。

AI特許検索システムの計画

- 新しいAIモデルのために、KIPOは最も重要で不可欠な**訓練データ**を収集している。



AI特許検索システムの計画



12

ありがとうございました

13